

年 組 名前:



南アルプス子どもの村校での取り組みなどを語った。対談には家族連れら15人が参加。オオタ監督は「僕自身が小学生の小学校」でメガホンを取った。撮影を通じて、同校の加藤博校長のこの学校ならストレスな対談が18日、甲州市の塩山シネマで行われ、2人が思うことが多くあった。大人が思

「夢みる小学校」魅力語る

塩山シネマ 南ア舞台、監督と校長対談

対談するオオタヴィン監督（左）と加藤博校長（甲州市塩山上於曾）

い込みを交えてくれる映画になった。ぜひ多くの人に紹介してほしいと呼び掛けた。加藤校長は南アルプス子どもの村小中では「プロジェクト」という学習形態をとったり、教員を「先生」ではなくニックネームで呼んだりしていることを紹介。「2回見たが2回とも涙が出た。働いている自分でも感動する映画だった」と感想を語った。映画は南アルプス子どもの村小中などを舞台に子どもの自主性を伸ばす教育の実践を描いた作品で、各地の特徴ある学校の生活に密着し、撮影された。塩山シネマでの公開は26日まで。上映時間は約90分。平日午前10時半と午後1時半、土日曜日は午後4時から上映している。〈松本飛勇馬〉

(2022年6月23日付 山梨日日新聞 23面)

問1 南アルプスの学校などを舞台とした映画「夢みる小学校」は、何を描いた映画ですか。

.....

問2 舞台となった学校では、他にない特別なことをしています。2つ教えてください。

.....
.....

問3 あなたの学校には、他の学校にない自慢できることがありますか。

.....
.....